

《伝統的工法はユネスコ無形文化遺産にも》

市民会館の茶室「松樹庵」 柿葺屋根を葺き替え

～葺き替え作業の道具や柿葺の構造模型の展示も～

平成9年5月に国の有形文化財に登録された市民会館の茶室「松樹庵（しょうじゅあん）」で行っていた柿葺（こけらぶき）屋根の葺き替え工事が3月24日に完了し、外観は自由に見学できるようになっている。併せて、市民会館では、葺き替え作業に使用した道具類や柿葺き屋根の構造模型を展示し間近に見ることができるほか、作業の様子を撮影した動画も上映している。展示は5月5日（水）まで。見学無料。

茶室「松樹庵」は、茂木家が所有していた明治期初期築の建物を昭和59年に市民会館に移築したもの。平成9年の屋根葺き替えから四半世紀近くを経て柿葺の劣化が進み、美観を大きく損ね、また雨漏りも生じたことから、令和2年12月から国庫補助事業による修繕を行っていた。

柿葺は、木の薄板を幾重にも重ねて施工する日本古来の伝統的工法だが、建築技術の近代化に伴い、現在では技術の継承が困難となっている。その重要性から令和2年12月にユネスコ（国連教育科学文化機関）無形文化遺産「伝統建築工匠の技 木造建造物を受け継ぐための伝統技術」のひとつとして登録された。

今回の施工を担当したのは、（公社）全国社寺等屋根工事技術保存会の会員である（株）児島工務店（岡山市）。3月24日に葺き替えが完了し茶室の外観を自由に見学できるようになったほか、施工事業者の厚意により、葺き替え作業に使用した屋根金槌（やねかなづち）や銚（せん）などの道具類や、柿葺き屋根の構造模型を市民会館に展示し、5月5日（水）まで間近に見ることができる。また、作業の様子を記録撮影した動画も併せて上映している。茶室「松樹庵」は、いにしえから途絶えることなく伝統を受け継ぎながら工夫を重ねて発展してきた建築技術を間近に見ることができる絶好の場となっているので、ぜひ見学していただきたい。

《市民会館》

江戸時代から続く醤油醸造家のひとつである茂木佐平治家の住宅として大正13年頃に築造された大規模な近代和風住宅と日本庭園。昭和31年に野田醤油株式会社（現キッコーマン株式会社）から野田市に寄贈され、現在は市民のキャリアデザインの拠点として利用され、国際交流イベントの会場など幅広く活用されてきた。その豪壮な住宅建築と日本庭園が織りなす優れた景観から野田市の主要な観光スポットにもなっている。

【展示期間】 令和3年5月5日（水）まで ※火曜休館（祝日は開館）

【開館時間】 午前9時～午後5時

【問合せ】 野田市郷土博物館・市民会館 電話 04-7124-6851

問合せ＝生涯学習課・電話 04-7125-1111 内線 2651

野 田 市